東住吉中学校　校長室だより　　令和４年度 No.8

ひまわり

令和４年５月23日（月）

生き方を変える

日野原重明【ひのはら しげあき・1911-2017】さんという医師がいました。明治、大正、昭和、平成の４つの時代を生き、105歳でお亡くなりになりました。

日野原さんが東京の聖路加（せいろか）国際病院長を務めていた1995年、地下鉄サリン事件が起こりました。サリンという猛毒の化学物質を使った、東京の地下鉄内で起こったテロ事件です。同病院は事件直後に外来を休診にし、被害者を制限なく受け入れ、解毒剤による治療をおこないました。そのおかげで、多くの被害者を救うことができたのです。当時、日野原医師は８３歳でしたが、その後、歳を重ねても精力的に働き続け、100歳を超えても現役医師であり続けました。

104歳になった2015年、日野原さんは次のように言っています。

「命は私に与えられた時間です。それを何のために使うのか、もし助けを求めている者のために有効に使うのなら、自分たちの生き方は、これからの時代を生きる子どもたちの手本になる」

この言葉に出会ったとき、これが日野原医師の生き方を象徴するものだと感じました。また、次の言葉も残しています。

「鳥は飛び方を変えることができないし、動物は這（は）い方・走り方を変えることはできない。しかし、私たち人間は、どの時期においても、変えようと思えば生き方を変えることができます」

私たちの一生は、その最初から最期（さいご）までの間、物事がうまくいくこともあれば、そうでない時もあります。物事がうまくいかない時や、失敗してしまった時、それをどう捉えるかが大切です。物事がうまくいかないことを人のせいにせず、自分に足りないものは何だったのかと考える姿勢をとる。失敗してしまった時は、反省して同じ失敗を繰り返さない姿勢をとる。このような姿勢をとるためには、日々の小さな出来事に対する正しい物の考え方と、正しい行動の積み重ねと、それを習慣化することが大切です。このような姿勢をとることができた時、日野原医師の言うように、人は自分の生き方を変えることができるのです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。